

## 巣立ちの季節

真光寺川を清流にする会  
世話人 山口 拓郎

今年は例年に比し春の訪れがためらい勝ちだった。3月半ば、真光寺川の川面をかすめツバメが飛ぶのが見られた。コブシの花が一斉に開花した。青空を背景に光る花卉に本格的春の季節の到来を感じた。春はまた巣立ちの季節でもある。真光寺川周辺の小学校で、そして中学校で卒業式が開催された。

### 2月

2月5日(土)和光鶴小・公開研究会  
石川先生から公開研究会へお招きをうける。全国各地から30名余りの先生方が参加される。高橋、二田さんと出席。

「真光寺川」石川先生。「禅寺丸」大野先生。いい発表だった。気になるのは総合学習に対する国の方針の揺らぎだ。討議では現場の先生方の悩みが熱く語られた。

2月10日(木)鶴四小においてトーク  
大谷先生からお招きを受けた。  
昨年12月中旬、寒い中真光寺川体験をした子ども達だ。80名、その中には見覚えの顔もある。やはりナマズやコイ、魚への関心が高かった。  
帰路、鶴三小に立ち寄り工作展示会を見せてもらおう。なかなかの出来栄えだった。

2月13日(日)三輪・寺家地区探訪  
清掃日だが水が冷たいので前月に引き続き会員と周辺地区の探訪を行う。14名参加。  
「三輪みどりの会」の里山管理の作業現場を見せてもらう。「そまがや」「二本松下」併せて約2ヘクタール。毎日曜日、十数名で雑木林の下草刈りをされているそうだ。自然との共生、里山が見事に甦っている。大変な作業量に違いない。その熱意に脱帽し、いい刺激を頂く。

程なく「寺家ふるさと村」へ。激しい都市化の中でこんなにもどかな地区が近郊に残されているとは驚きだ。大切に守ってきたいものだ。

恩廻公園から鶴見川沿いに帰路へ。山岡さんが「早く清掃作業をしたいですね」と漏らされる。実感がこもっていた。

### 2月17日(木)水サンプル採集

8時半に家を出る。風が冷たい。ゴミが目立ち胸が痛む。鳥を記録しながら歩く。意外に時間を取る。松前さんと約束の11時に、ようやく間に合う。

### 2月22日(火)鶴二小でトーク

田村教頭先生から卒業を間近に控えた6年生82名を対象に自然学習の授業をしたいとのお話。予定が入っていたがキャンセルしてお伺いする。「みどりの指」の神谷さん「西緑地」の佐藤さんと10分ずつトークし質問を受ける。アオダイショウとサギの闘いに質問が集まった。後日、お礼の電話を頂く。

### 3月

3月13日(日)清掃日  
曇天、風は冷たい。待望の清掃日。  
9時30分、元気な顔が揃う。

2ヵ月のブランクがあったので流石に多い。うず高いゴミ袋の山が出来た。自転車も4台。いこい会館が「祭り」で使えないので「いちょう会館」で反省会を行い2時解散。3時頃だったろうか。ぼんやりテレビを見ているところへ鶴二小の田村教頭先生から電話がある。「子ども達とアユの稚魚を放流するので、よかったですか」

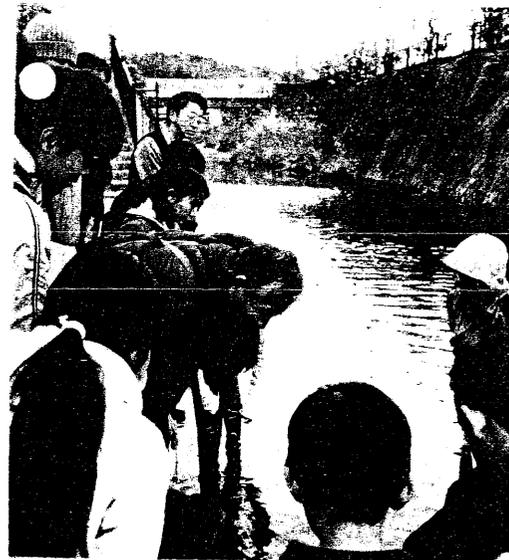
下堰親水に子ども達と父兄が30名近く集まっている。バケツから数匹ずつすくい上げ「帰ってこいよ」と声をかけながら放してやる。いつか冷たいみぞれになっていたが、この一面だけは熱気が立ちこめていた。

### 3月17日(木)水サンプル採集

快晴。先日の清掃作業でゴミも目立たず気持ちがいい。「せせらぎの小径」で犬と散歩をしているお年寄りに声をかけられた。

### 3月18日(金)真光寺中・卒業式

早く着いたので校庭の池を覗く。放したメダカの影は見えない。業生87名。少子化の影響は顕著である。20年前には260名の卒業生を送り出したこともあるようだ。



3月24日(木)鶴三小・卒業式  
2クラス、48名が一人一人将来の進路を元気よく宣誓し、巣立って行った。谷川峻太郎作詞、山本直純作曲の校歌の伸びやかな調は快い。人生の節々で彼等の胸に甦り励ましとなることであろう。

### 4月

### 4月2日(土)鶴三小「真光寺川ウォーク」準備会

昨年に引き続き開催されることになった。町内会、自治会、老人会、ボランティアグループの方々が集まる。昨年の体験を踏まえ段取りがスムーズに決められていく。全校生徒320名が初夏の一日、思い切り真光寺川に親しむことは素晴らしいことだ。それに地域の人々が子ども達のために協力しあへることは貴重だ。

### 4月10日(日)清掃日

快晴、清掃日和である。相変わらずゴミは多い。処々に小魚の群れが認められた。終わって鶴三小「真光寺川ウォーク」と「真光寺川まつり」を中心に役割分担を話し合う。

### 4月18日(月)公園緑地課及び下水道局訪問

先月、エコネットの推進連絡会議でささやかな浄財を緑地保全基金へ寄付することになった。樋渡さんと公園緑地課を尋ねしお届けした。たまたま話題が真光寺川上流の護岸工事、更に源流の保全のことに及んだ。行政も自然保護に配慮しており、情報交換ができたことは有意義だった。  
引き続き平素お世話になっている下水道局を訪問し最近の川の状況を報告する。後日数ヵ月分のゴミ袋を届けて下さった。

(この項おわり)